



盛岡市プレスリリース

～ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡～

令和5年12月1日

盛岡市教育委員会事務局
歴史文化課

市政記者クラブ加盟社 各位

企画展「もりおか古文書学演習 ―古文書が語る盛岡南部家の歴史―」 を開催します

この度、もりおか歴史文化館では令和5年12月9日（土）から企画展「もりおか古文書学演習―古文書が語る盛岡南部家の歴史―」を開催いたします。
本展は盛岡南部家に伝来した「古文書」の歴史的意義について、改めて「古文書学」的な観点から迫ります。
ぜひ、ご高覧ください。

記

【日 時】令和5年12月9日（土）～令和6年2月19日（月）
9時～18時（※入場受付は17時半まで）

【場 所】もりおか歴史文化館 2階企画展示室（盛岡市内丸1-50）

【入場料】一般300円、高校生200円、小・中学生100円

【主 催】もりおか歴史文化館活性化グループ

【関連企画】

・ギャラリートーク

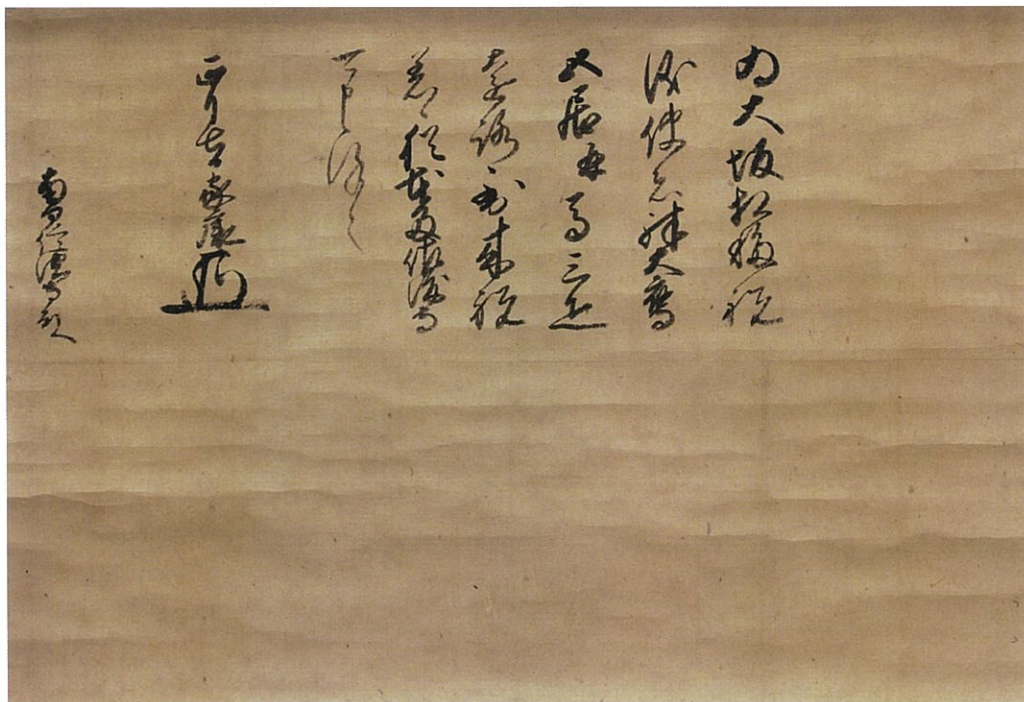
日 時：令和6年1月13日（土）、2月10日（土） 各日13時30分～14時30分

解 説：担当学芸員、参加費：展示室入場料が必要

・れきぶん講座 計3回

*詳細は当館公式ホームページ及び本展チラシをご覧ください

【展示資料の一部】



「南部利直宛徳川家康書状」
慶長5年（1600）カ 正月七日

【問い合わせ】

もりおか歴史文化館

担当：熊谷博史

電話：019-681-2100



もりおか

古文書学

演習



令和5年 12月9日(土)

令和6年 2月19日(月)

会場/もりおか歴史文化館 2階企画展示室

開館時間/9時-18時(入場受付は17時30分まで)

観覧料/一般300円、高校生200円、

小・中学生100円、団体(20人以上)は各2割引

*盛岡市内在住で65歳以上の方、小中学生のうち盛岡市在住就学の方は無料

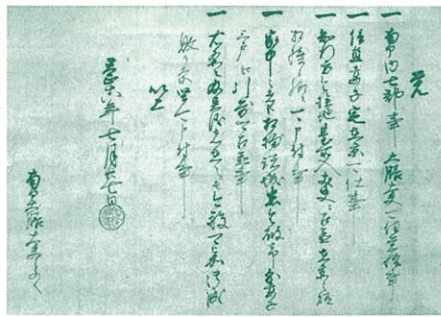
*障がいをお持ちの方やその介護をされる方(障がい者1人につき1人まで)は無料

*会期中の休館日:令和5年12月19日(火)、12月31日(日)、令和6年1月1日(月)、1月16日(火)

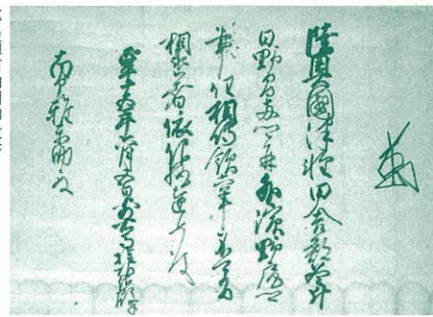
*会期中の閉室日:令和5年12月20日(水)、12月21日(木)

古文書が語る
盛岡南部家
の歴史

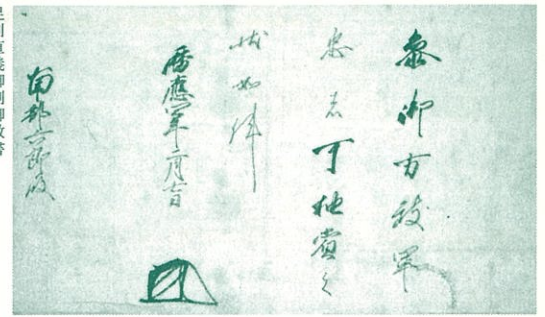




北畠顕信補判御教書



足利直義御判御教書



古文書が語る 盛岡南部家の歴史



前田利家起請文

令和5年 12月9日(土) 令和6年 2月19日(月)

関連企画

1 れきぶん講座
御判と偽文書と南部-南部家文書にみる南北朝-

◎講師/野村朋弘氏(京都芸術大学准教授)
◎内容/盛岡南部家に残された古文書のうち、南北朝時代のものに焦点をあて、その歴史的意義を古文書学的な観点から改めて考える。

◎日時/令和5年12月24日(日) 13:30-15:30
◎会場/当館1階 研修室
◎定員/会場参加:50名 オンライン参加:50名
*往復はがき又は応募フォームからの事前申し込み制。
*締め切りは12月11日(金)必着

2 れきぶん講座
天下人と東北-豊臣秀吉文書を読む-

◎講師/堀越祐一氏(国学院大学北海道短期大学部准教授)
◎内容/天下統一を成し遂げた豊臣秀吉と東北(奥羽)の繋がりについて、盛岡南部家文書を含む様々な古文書から読み解く。

◎日時/令和6年1月20日(土) 13:30-15:30
◎会場/当館1階 研修室
◎定員/会場参加:50名 オンライン参加:50名
*往復はがき又は応募フォームからの事前申し込み制。
*締め切りは12月28日(金)必着

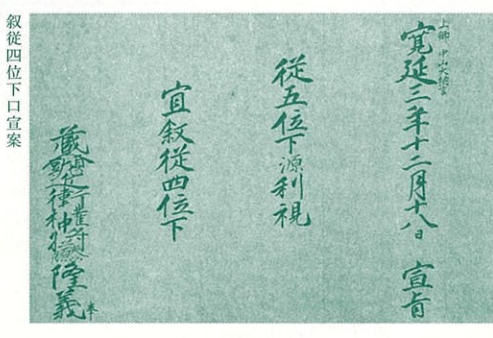
3 れきぶん講座
大名が一番大事にした文書-「領知判物」の持つ力-

◎講師/千葉一大氏(青山学院大学講師)
◎内容/盛岡南部家に残された古文書のうち、江戸幕府から発給された「領知判物」「領知目録」に焦点をあて歴史的意義を明らかにする。

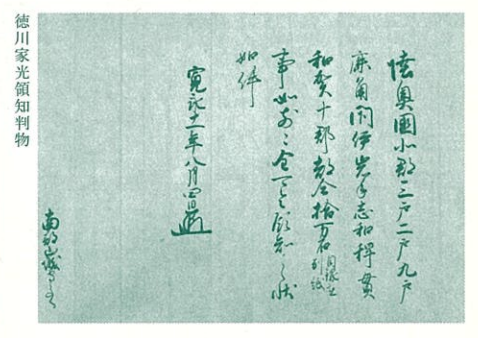
◎日時/令和6年2月18日(日) 13:30-15:30
◎会場/当館1階 研修室
◎定員/会場参加:50名 オンライン参加:50名
*往復はがき又は応募フォームからの事前申し込み制。
*締め切りは2月2日(金)必着

4 ギャラリートーク(担当学芸員による展示資料解説)

◎当日自由参加
◎日時/令和6年1月13日(土) 13:30-14:30
令和6年2月10日(土) 13:30-14:30
◎会場/企画展示室



叙従四位下口宣案



徳川家光領知判物

もりおか 古文書学 演習

「古文書」は歴史を知るための情報の宝庫です。それは文字(くずし字)を解読して読みとれる内容だけでなく、どのような様式や形態で作成されているかといった、文字以外の情報も含まれます。日本では古くから、文書を作成する際、使う紙、文字の書き方、署名の仕方、日付・宛名の書き方などを、相手や内容によって変えるといったルールが存在していました。しかもそのルールは、時代の変遷や地域の相違によって、さらに複雑になっていきます。しかし

このルールを理解しておくと、文字から読み取れる内容だけでは見えてこない、「古文書」の別の一面を知ることが出来ます。つまり、たとえ文字が読めなかつたとしても、その様式や形態に着目することによって、「古文書」が語る歴史の一端に触れることができるということです。この「古文書」のもつ複雑な性質を理解し、「古文書」に関する知識を整理するところの学問が「古文書学」です。「古文書学」は、これを学ぶことによって「古文書」の史料的価値を明確にできることから、日本史の研究上で最も重要な武器とも言われています。本展では、盛岡南部家に伝来した「古文書」の歴史的意義について、改めて「古文書学」的な観点から迫ってみたいと思います。現在でも手紙を書くとき、さまざまなルールや作法に頭を悩ませることも多いかと思いますが、本展を通じてその伝統の意義を知っていただくとともに、「古文書」の持つさらなる魅力に気づいていただけたら幸いです。

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸1番50号
Tel.019-681-2100
https://www.morireki.jp/

もりおか歴史文化館 Morioka History and Culture Museum 活性化グループ

